

質問件名 市民の顔が見える広報をより充実させるために

【質問要旨】

行財政再構築プランには、「情報の共有と双方向のコミュニケーション」の方針があり、現在策定中の第3次プランにも入っています。情報共有としては市民参加の前提となる行政情報の提供の方法について、ホームページ上の資料掲載がスタンダードになったほか、生活者ネットとして提案してきた都市計画情報のパネル展示やオープンハウスなどの手法が実現しました。

双方向のコミュニケーションについては議会に入った年の2007年の9月議会で電子会議室を取り上げSNSの可能性について提案をしました。その後ツイッターやフェイスブックが登場し、市としても新たな情報発信を開始していますが公式なものとしては第3次のプランに委ねられています。その後具体的な提案はしてきませんでした。ツールとしての問題だけでなく、双方向のコミュニケーションは前提となる現実の市民参加と協働のあり方そのものとも言えると感じてきました。

小平の問題を市民が自らのこととして考えるには、行政と市民間のコミュニケーションだけでなく、市民と市民をつなぐ形を模索していくのが早道ではないかという気がしています。

以上の考えのもと、市の広報について以下の通り質問します。

- ① 行政情報の発信だけでなく、市民の顔や暮らしの姿が見える媒体づくりへの考えは。
- ② 例えば自主防災組織や公園ボランティアの団体や人を紹介し併せて募集するなど、市民の活動を通して施策への参加を広げることはいか。
- ③ 市民活動支援センターやボランティアセンターとの連携で、市民グループや個人の活動を市報やホームページで紹介できないか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2016年8月29日 小平市議会議長 殿

小平市議会議員 氏名 日向 美砂子
受付番号【 】

26	25	24	23

— (/)